

北海道道南地域(五稜・木古内間)並行在来線経営計画（最終案）について

1 これまでの経過

年月日等	項目
平成25年 3月25日 第3回開業準備協議会	並行在来線の経営・運行に関する基本方針の決定
平成25年 8月23日 第4回開業準備協議会	北海道道南地域（五稜郭・木古内間）並行在来線経営計画（素案）の提示
平成26年 1月16日 第5回開業準備協議会	北海道道南地域（五稜郭・木古内間）並行在来線経営計画（原案）の提示
平成26年 5月15日 第6回開業準備協議会	北海道道南地域（五稜郭・木古内間）並行在来線経営計画（案）の提示

2 経営計画の位置付け

経営計画は、平成27年度末に予定されている北海道新幹線新函館北斗の開業に伴い、JR北海道から経営分離される江差線（五稜郭・木古内間）を地域の公共交通機関として存続維持するため、新たに設立する三セク鉄道会社の経営の基本的事項を取りまとめたもの。

三セク鉄道会社は、この経営計画を踏まえ、具体的な事業計画等の検討を進める。

3 経営計画（案）からの主な変更点

- ① 北海道新幹線の駅名決定に伴う変更
- ② 前回の協議会での意見を踏まえた変更
- ③ JR貨物の列車脱線事故に係る協議会として考え方

①北海道新幹線の駅名決定に伴う変更

経営計画（最終案）H26. 7. 15	経営計画（案）H26. 5. 15
北海道新幹線新函館北斗 奥津軽いまべつ	北海道新幹線・新函館（仮称） 奥津軽（仮称）

②前回の協議会での意見を踏まえた変更

経営計画（最終案） H26. 7. 15	経営計画（案） H26. 5. 15
<p>4 営業計画</p> <p>(3) 三セク鉄道会社と J R 北海道の乗継利用</p> <p>②乗継割引制度</p> <p>イ 定期券及び回数券</p>	
<p>～また、連絡運輸範囲内の定期券についても、三セク鉄道会社と J R 北海道双方の運賃を割り引くこととし、<u>運賃上昇率の平準化が図られるよう</u>割引率等の具体的な内容について、今後 J R 北海道と協議を進める。</p>	<p>～また、連絡運輸範囲内の定期券についても、三セク鉄道会社と J R 北海道双方の運賃を割り引くこととし、割引率等の具体的な内容について、今後 J R 北海道と協議を進める。</p>
<p>VII 利用促進に関する事項</p> <p>(3) 三セク鉄道会社の役割</p>	
<p>また、路線愛称や列車名、<u>駅名</u>等について、<u>公募</u>やネーミングライツ（命名権）の導入を検討するなど、<u>地域と</u>連携した取組を実施する。</p>	<p>また、路線愛称や列車名等について、ネーミングライツ（命名権）の導入を検討するなど、地元企業とも連携した取組を実施する。</p>

③ J R 貨物の列車脱線事故に係る協議会として考え方

経営計画（最終案） H26. 7. 15	経営計画（案） H26. 5. 15
<p>III 施設・設備等に関する事項</p> <p>1 基本的な考え方</p>	
<p>～とし、J R 北海道から譲り受けることを基本とするが、<u>この区間は平成24年4月以降、3度にわたり J R 貨物の列車脱線事故が発生していることから、安全運行体制の構築に関する基本合意に基づき、J R 北海道において経営分離区間全体にわたる万全な安全体制を確保する。</u></p>	<p>～とし、J R 北海道から譲り受けることを基本とする。</p>

4 経営計画（最終案）

別添のとおり